

# 決算説明資料

(2022年12月期 第2四半期決算)

2022年8月5日  
東証スタンダード市場

オーナンバ株式会社

## 目次

ONAMBA CO.,LTD.

---

- I . 決算の概要(PL、BS、CF等)
- II . 2022年12月期 第2四半期のトピックス
- III . 2022年12月期の経営戦略
- IV . 2022年12月期の業績予想

## 〔連結損益〕

(単位:百万円)

科目	2021年第2四半期累計期間		2022年第2四半期累計期間		増減		2022年2月4日 公表した当初 業績予想数値
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	
売上高	18,509	100.0%	20,088	100.0%	1,579	8.5%	18,500
売上原価	15,163	81.9%	16,491	82.1%	1,328	8.8%	—
販売費・一般管理費	2,536	13.7%	2,725	13.6%	188	7.4%	—
営業利益	809	4.4%	871	4.3%	61	7.6%	450
営業外収支	145	0.8%	152	0.8%	7	4.8%	—
経常利益	955	5.2%	1,024	5.1%	68	7.2%	450
親会社株主に帰属する 四半期純利益	793	4.3%	757	3.8%	△36	△4.6%	400

## 《売上高》

国内外において自動車産業での減産や生産調整などの影響、中国でのロックダウンの影響がありましたが、自動車・産業機器用製品や環境関連システム製品等の新規開拓を図ったこと、また原材料の確保とグローバルでの生産体制及び供給体制の強化に積極的に取り組んだ結果、ワイヤーハーネス部門を中心に売上高が増加し、円安による為替影響も加わったことで、売上高は20,088百万円(前年同期比8.5%増)と前年を上回りました。

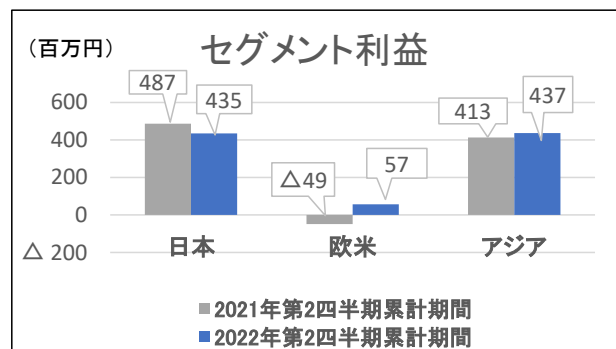
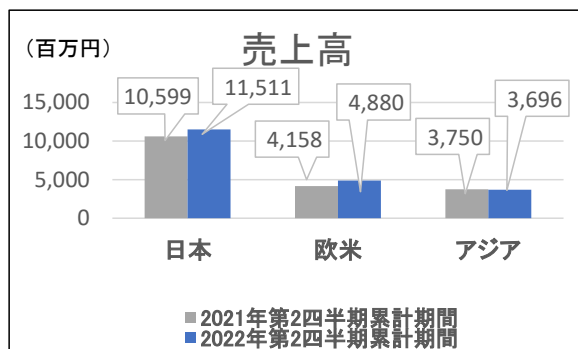
## 《利益》

売上高の増加に加え、積極的な原価低減活動及び販管費の抑制、また銅価格高騰などによる材料コストの上昇や物流費の増加への対応として、製品価格の改定に取り組んだ結果、営業利益は871百万円(前年同期比7.6%増)、経常利益は1,024百万円(前年同期比7.2%増)となり、営業利益及び経常利益は前年を上回りました。また、中国でのロックダウンにより発生した、工場の稼働停止に伴う人件費等の固定費を、感染症関連損失として特別損失に計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は757百万円(前年同期比4.6%減)と前年を下回りました。

3

## セグメント情報

ONAMBA CO.,LTD.



## 《日本》

自動車産業での減産や生産調整などの影響、中国でのロックダウンによる物流への影響などがありましたが、自動車・産業機器用製品や環境関連システム製品等の新規開拓などに積極的に取り組んだ結果、ワイヤーハーネス部門の売上が増加し、売上高は11,511百万円(前年同期比8.6%増)となりました。利益面では、原価低減活動及び販管費の抑制、銅価格高騰などによる材料コスト上昇への対応として、製品価格の改定に取り組んだものの、自動車産業での減産や生産調整の影響、販売品種構成の悪化により、営業利益は435百万円(前年同期比10.6%減)となりました。

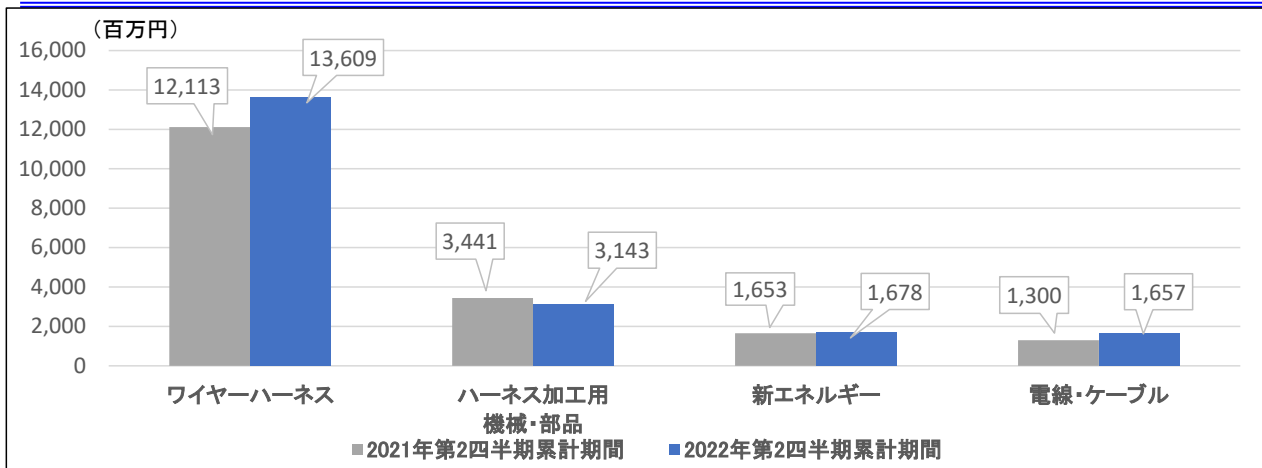
## 《欧米》

半導体不足による自動車産業での減産や生産調整の影響が継続しているものの、原材料の確保と生産体制及び供給体制の強化に取り組み、また欧州での空調用ハーネスの需要が好調に推移したことで、売上高は4,880百万円(前年同期比17.4%増)となりました。利益面では、売上高の増加に加え、世界的なコンテナ不足による物流費の高止まりや、材料供給不足に伴う調達コストの増加への対応として、製品価格の改定に取り組んだ結果、営業利益は57百万円(前年同期は49百万円の営業損失)となりました。

## 《アジア》

ワイヤーハーネス部門の需要は堅調に推移しておりましたが、中国でのロックダウンの影響により販売が減少し、売上高は3,696百万円(前年同期比1.4%減)となりました。一方で、ロックダウンにより発生した工場の稼働停止に伴う人件費等の固定費を、感染症関連損失として特別損失に振り替えたことや、原材料の確保と生産体制及び供給体制の強化により生産性の向上を図り、営業利益は437百万円(前年同期比5.9%増)となりました。

4



## 《ワイヤーハーネス部門》

国内外において自動車産業での減産や生産調整などの影響がありましたが、自動車・産業機器用製品の分野で製品開発・新規開拓の促進を図ったこと、また原材料の確保とグローバルでの生産体制及び供給体制の強化に積極的に取り組んだ結果、売上高13,609百万円(前年同期比12.3%増)となりました。

## 《ハーネス加工用機械・部品部門》

自動車関連の生産調整などの影響等により、売上高3,143百万円(前年同期比8.7%減)となりました。

## 《新エネルギー部門》

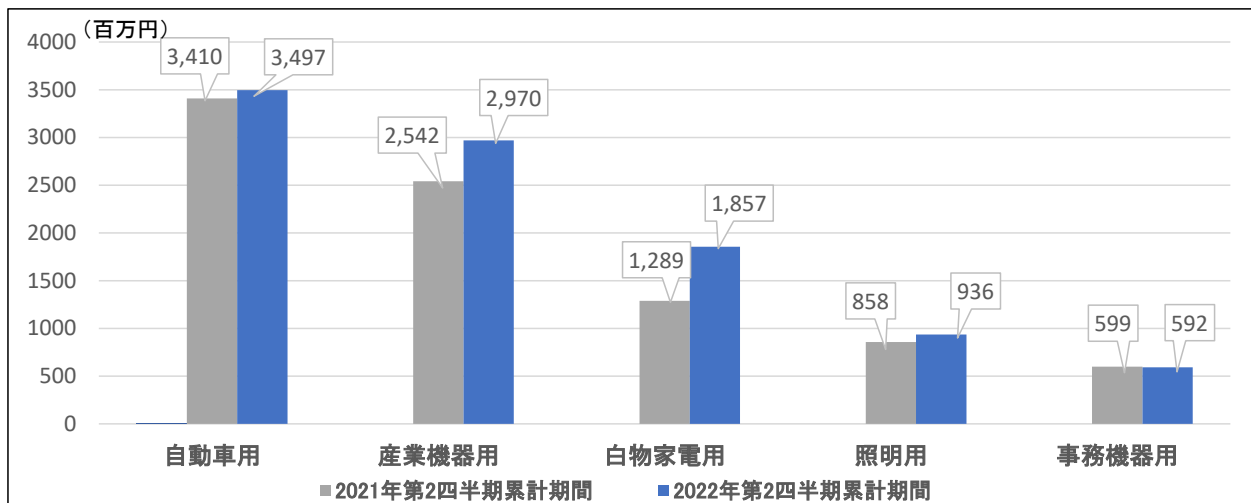
太陽光発電関連製品および環境関連システム製品等の新規開拓に積極的に取り組んだ結果、売上高1,678百万円(前年同期比1.5%増)となりました。

## 《電線・ケーブル部門》

日本国内での産業機器向け電線の需要の増加や価格改定に取り組んだ結果、売上高1,657百万円(前年同期比27.4%増)となりました。

5

# ワイヤーハーネスの主な製品別売上高



## 《自動車用分野》

新型コロナ再拡大の影響や半導体不足による自動車産業での減産や生産調整などの影響がありましたが、製品開発・新規開拓の促進に取り組んだ結果 3,497百万円(前年同期比86百万円、2.5%増)となりました。

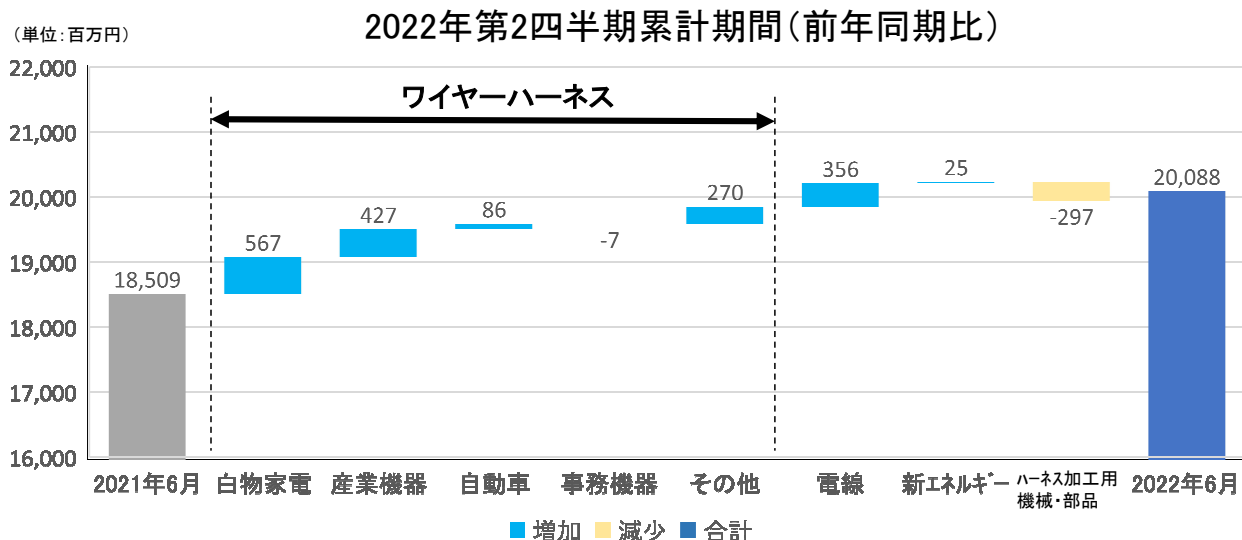
## 《産業機器分野》

新型コロナ再拡大の影響はありましたが、産業機器用製品の需要が堅調に推移し、製品開発・新規開拓の促進に取り組んだ結果 2,970百万円(前年同期比427百万円、16.8%増)となりました。

## 《白物家電用分野》

欧州での空調用ハーネスの需要が好調に推移したことにより1,857百万円(前年同期比567百万円、44.0%増)となりました。

6



【主な増加要因】

- 《白物家電用分野》 欧州での空調用ハーネスの需要が好調に推移したことにより567百万円増(44.0%)となりました。
- 《産業機器分野》 新型コロナ再拡大の影響はありましたが、産業機器用製品の需要が堅調に推移し、製品開発・新規開拓の促進に取り組んだ結果427百万円増(16.8%)となりました。
- 《電線》 日本国内での産業機器向け電線の需要の増加や価格改定に取り組んだ結果、356百万円増(27.4%)となりました。

7

固定資産投資

○有形固定資産取得額 421百万円

【主な投資内訳】

《環境関連投資》 80百万円

《生産設備》 225百万円

- ・日本子会社のハーネス加工用機械・部品の製造設備 142百万円
- ・日本子会社の電線製造設備 44百万円
- ・中国子会社のハーネス加工用機械・部品の製造設備 39百万円

8

(単位:百万円)

科 目	2021年12月末		2022年6月末		増 減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
流動資産	23,678	71.9%	26,322	74.1%	2,644
（現金及び預金）	4,370	13.3%	4,195	11.8%	△175
（受取手形、売掛金及び契約資産）	10,061	30.5%	11,000	31.0%	939
（たな卸資産）	8,416	25.6%	10,180	28.7%	1,764
固定資産	9,262	28.1%	9,184	25.9%	△77
（有形固定資産）	5,947	18.1%	6,303	17.8%	355
資産合計	32,940	100.0%	35,507	100.0%	2,567
負債	14,647	44.5%	15,379	43.3%	731
（支払手形及び買掛金）	7,540	22.9%	7,814	22.0%	274
（有利子負債）	3,950	12.0%	4,368	12.3%	417
純資産	18,292	55.5%	20,128	56.7%	1,835
負債・純資産合計	32,940	100.0%	35,507	100.0%	2,567
自己資本	17,819	54.1%	19,519	55.0%	1,700

《総 資 産》

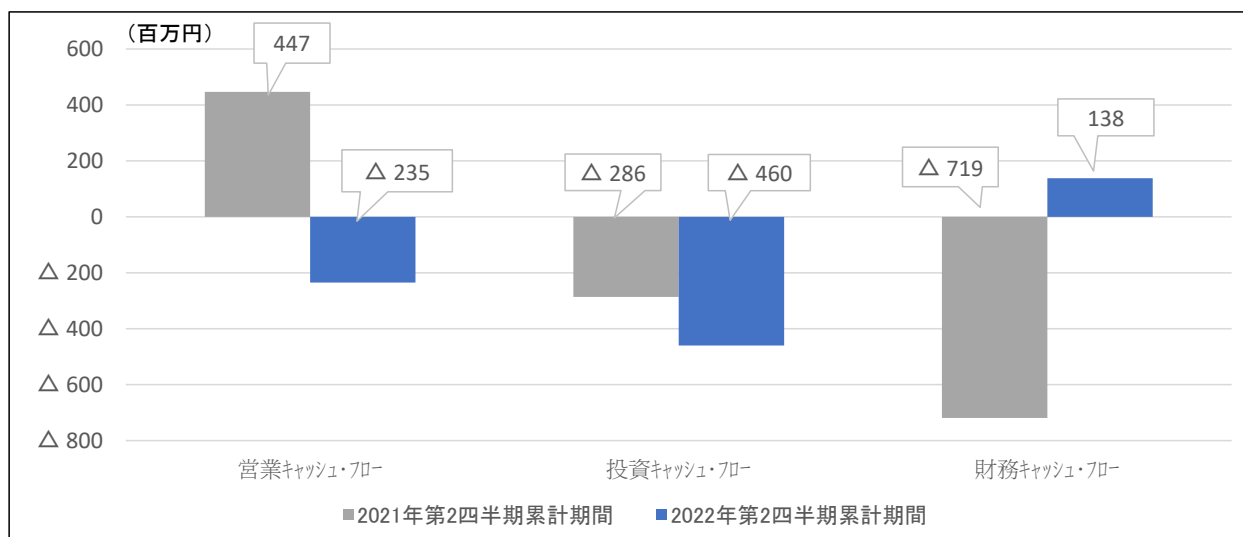
資産合計は、35,507百万円(前期末比2,567百万円増)となりました。主に、受取手形、売掛金及び契約資産が939百万円、棚卸資産1,764百万円及び有形固定資産が355百万円増加し、投資その他の資産が451百万円減少いたしました。

《自己資本比率》

自己資本は19,519百万円へ増加となり、自己資本比率は54.1%から55.0%(前期末比0.9%増)となりました。

9

キャッシュ・フローの状況



《営業活動によるキャッシュ・フロー》

営業活動によるキャッシュ・フローは、235百万円の支出(前年同期は447百万円の収入)となりました。主に、税金等調整前四半期純利益983百万円、減価償却費424百万円、売上債権の増加528百万円、棚卸資産の増加954百万円及び仕入債務の減少78百万円によるものであります。

《投資活動によるキャッシュ・フロー》

投資活動によるキャッシュ・フローは、460百万円の支出(前年同期は286百万円の支出)となりました。主に、有形固定資産の取得による支出421百万円によるものであります。

《財務活動によるキャッシュ・フロー》

財務活動によるキャッシュ・フローは、138百万円の収入(前年同期は719百万円の支出)となりました。主に、短期借入金の調達(純額)227百万円、長期借入金の調達による収入284百万円及び長期借入金の返済による支出199百万円によるものであります。

### 1. 新製品開発・開拓の推進

- ・電線新製品(CM&CL3規格対応リスティングケーブル MSFシリーズ)の販売拡大
- ・成長分野(環境/自動車/産業機器/情報通信等)での新規受注
  - 新EMS(エネルギーマネジメントシステム)受注・納入拡大
  - 人協働ロボットコントローラー用ワイヤーハーネス受注
  - エアコン室外空調機用ワイヤーハーネス受注

### 2. ものづくり改革の推進

- ・グローバルでの生産方針に基づく拠点展開
- ・品質/生産性向上に向けた新規設備導入(AI画像認識による検査装置等)
- ・グローバルものづくり管理指標の運用による製造コスト低減推進

### 3. 経営基盤の見直し強化

- ・グローバルIT基盤構築に着手
- ・With コロナに対応したリモートワーク、オンライン会議等の積極推進

11

## Ⅲ. 2022年12月期の経営戦略

### 1. 新製品開発・マーケット開拓の促進

- ・環境/自動車/産業機器/情報通信分野等成長分野での深掘りによる事業拡大
- ・成長分野での新規テーマの開拓

### 2. ものづくり改革の推進

- ・グローバル拠点戦略の着実な実践
- ・生販技一体となった生産管理力と生産技術力の強化
- ・グローバルものづくり管理指標の運用による生産性向上

### 3. 業務基盤の見直し強化

- ・グループ統合の情報基盤構築による業務効率向上
- ・リモートワーク、オンライン会議等の積極活用による働き方改革の推進

12

## 1. 連結業績予想数値

(単位:百万円)

	2022年第2四半期 累計期間(実績)	年間見通し
売上高	20,088	39,500
営業利益	871	1,550
経常利益	1,024	1,800
親会社株主に帰属 する当期純利益	757	1,400

## 2. 配当金の状況

	第2四半期末	期末	合計
2021年12月期 (実績)	6円	8円	14円
2022年12月期 (予想)	8円	8円	16円

13

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。

14